

周波数の国際協調利用促進事業 平成 29 年度 採択評価結果

案件名		実施期間	評価会での主なコメント	評価点
周波数の国際協調利用促進のための技術動向等調査及び国際展開戦略の検討	超伝導フィルター	H29-H31	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高度な技術であるが、いかにしてビジネスにつなげるかを適切に説明、計画している。</li> <li>・ 調査方法について、優れている。</li> <li>・ 実証実験は現実的であり、極めて実現性が高い。</li> <li>・ 本事業の範囲ではないが、SKA プロジェクトを見据えた調査、検討も行っていただきたい。</li> <li>・ 南アフリカ共和国における電波望遠鏡への導入という明確な目標が設定されている。</li> <li>・ VLBI のみならず、レーダーや無線技術全般への普及を期待したい。</li> </ul>	4.7
空港交通システムの高度化技術の国際協調利用促進	滑走路異物検知レーダー（リニアセルレーダー）システム	H29-H31	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現地での実証と国内でのデモンストレーションの二本立てであることを高く評価する。</li> <li>・ マレーシアの大学や研究機関と共同での提案であるため、妥当性が高いと思われる。</li> <li>・ 日本での試行の後、マレーシアに移行する計画は着実であり、現実性に優れていると思われる。</li> <li>・ マレーシア側との具体的調整はこれからだが、必要な機関等の想定が適切になされている。</li> <li>・ マレーシアは近年二度の大きな飛行機事故を経験し、ICAO や国連機関などに働きかけて航空関係の安全性向上を呼び掛けている。そう言った意味で、マレーシアの航空関係者とともにリニアセルレーダーシステムの導入により空港の安全化を推進することは同国の意図とも一致していると言える。</li> </ul>	4.6
	空港面探知レーダー（マルチラテレーション）システム	H29-H31	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成果を高めるために、海外での経験を生かした独自の調査方法を取っている。</li> <li>・ 仙台空港において伝搬シミュレーションを併用して計画を進める工夫は、評価できる。</li> <li>・ 意欲的な計画。スピード感がある。</li> <li>・ 現地機関との今後の一層のコンタクトが望まれる。</li> <li>・ 将来的な売り込みを考えて計画を立てている。</li> </ul>	4.1
周波数の国際協調利用促進のための海外展開プロジェクトの推進（課題公募型）	適応映像配信制御及びマルチパス映像配信技術を用いたドローン映像配信システム	H29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民間ベースでの普及を期待したい。そのための宣伝、広報活動が望まれる。</li> <li>・ 人家から 10km の山奥では衛星通信が主体か。コスト的にもマルチパスは厳しい。</li> <li>・ 衛星回線を利用する場合のコストとベネフィットを明らかにして欲しい。現在のドローンの航続距離でその優位性を示すことができるのかや疑問。</li> <li>・ 空きキャリアを利用し、電波リソースの有効活用が図られている。</li> <li>・ 実現性について、法制度など不確定要素が多い。</li> </ul>	3.5

	固体化二重偏波レーダー (ネットワーク) 技術	H29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、X帯の標準化が進むと見込まれる。ITUに偏波Xレーダーの仕様を盛り込むなどが重要であろう。</li> <li>・MP-Xレーダーネットワークは、米国において実証が始まったばかりであり、優位性が認められる。</li> <li>・レーダーは、従来型レーダーと同等のコストになっており、また、C帯に比してコストが低い。</li> <li>・X帯への移行は、電波の有効利用につながる。また、固体化に伴う低スプリアス等大きな利点がある。</li> <li>・老朽化による置き換えを目指すとなると、長期的計画が必要。灌漑局の導入は実現性が不明。</li> </ul>	4.5
--	----------------------------	-----	--	-----